

函館市に於ける経済活動の可視化

Visualization of economic activities in Hakodate city

1010119 長崎 洸祐

指導教員: 原田 泰

概要

本研究は、函館市に於ける経済活動を地図で視覚的に表現し、函館市の経済活動の分布や活用の可能性について理解する。この研究における経済活動とは、函館市にある様々な企業の事を意味している。地図を用いて視覚的に表現する事は、地域での経済活動の特徴や長所が一目で分かり、経済活動の現状も知る事ができる。これらを知ることで、函館市にある様々な経済活動を組み合わせた新しい経済活動の手助けをする。

1 はじめに

函館市は、1855 年の開港以降国内や国外との交易で栄えてきた都市である。しかし、1973 年の第一次石油ショック以降、現在に至るまで商売の売り上げは下り坂である [1]。それに伴い企業や人口も年を追うごとに減少しており、平成 19 年度では企業数 3,091[2]、総人口 279,127 人となっている [3]。

1.1 背景

函館市は旧函館区公会堂やハリストス正教会等の歴史的な建築物を数多く有しているが、近年では人口減少や若年層の市外流出、高齢化の進行などが進んでいる。同様に企業の数も年々減少しており、平成 6 年には 4,162 店舗あったが、平成 19 年には 3,091 店舗にまで減少している [2]。

1.2 目的

このような背景から、函館市にある企業数はこれから減少し、函館市内の企業同士での取引等の活動の機会も減少すると思われる。そこで、現在函館市にある経済活動の現状や特徴や長所を理解し、地図にまとめ視覚的に表現する。地図にまとめる事で、既存の電話帳等とは違う。そこから、特徴や長所を活かした新しい経済活動が生まれるきっかけを作る事を目的とした。

2 関連研究

本研究を行う上での関連研究として、「小国町のための地図デザインとその展開：遊歩道サインとガイドマップ、観光ガイド・リーフレットと観光案内サイン [4]」がある。この研究では、熊本県阿蘇郡小国町の地図を対象

に地図の分析と新しい地図の提案と評価について研究したものを実際に制作している。既存の小国町の地図について分析し、分析結果を元に市民と来訪者を対象にアンケートを行った。そのアンケート結果を元に新しく小国町の地図を提案している。提案された地図は実際に小国町の遊歩道ガイドマップ、観光案内サイン、観光ガイド・リーフレットとして実際に利用されており、研究の一部が 2010 年度のグッドデザイン賞を受賞している。

3 研究方法

前期では函館市西部地区を対象に企業の調査を行う。函館市西部地区の各地域でフィールドワークを行い、企業の情報や地域間での特徴の違いなどの情報を収集しデータベースを作成する。そのデータベースの情報を元に、函館市西部地区における経済活動の現状や特徴について分析を行う。また、関連研究の項でも述べた、既存の市や町の地図を分析する手順を参考に函館市の地図をいくつか収集し、函館市の地図の傾向についての分析を行う。それらを踏まえた上で、実際に函館市西部地区の経済活動についてまとめた地図のモックアップを制作する。制作したものは函館に住んでいる大学生を対象に利用してもらい、評価を行う。

後期では、前期で制作した地図のモックアップの評価を元に改良を行う。改良したものを前期同様に大学生に利用してもらい再度評価を行う。また、改良した地図のモックアップを元に過去に函館市で行われていた経済活動や函館市の歴史の理解を深めるためのデジタルコンテンツを制作し、完成後 Web サイトとして Web 上に公開する。

4 前期における研究経過

前期では函館市西部地区を中心にフィールドワークを三度行った。その結果を以下に示す。

一度目のフィールドワークでは弥生町を対象に行った。弥生町は個人商店が数多くあり、逆に株式会社などは少なく活発に経済活動が行われている印象は窺えなかった。昔は活発に経済活動が行われていたが、時が経つに連れて経済活動の拠点が変化していった為と思われる。この調査を元に弥生町を中心とした地図のモックアップを制作した(図1)。



図1 前期で作成したモックアップ

二度目のフィールドワークでは、函館市地域交流まちづくりセンターを中心に末広町から元町の範囲で行った。観光地にも密接している所は、観光スポットをはじめ、観光スポットに関連した飲食店や土産店、宿泊施設が目立っていた。その一方で、まちづくりセンターの近くでは飲食店などもあったが、生花店や印刷店などの地域に根差している企業が多くあるという事が分かった。古くから経済活動で栄えており、その名残りが現在の街並みにも残っているものと思われる。

三度目のフィールドワークでは、宝来町の中でも電車で通りよりも函館山よりの区画を対象に行った。宝来町は明治時代に創業した料亭や和菓子店等の長い歴史を持つ飲食店が多く、町全体が落ち着いている印象であった。弥生町や末広町とは異なり個人商店や企業は少なく住宅が多かったが、所々に株式会社や有限会社が見受けられた。

これらの結果から分かる事として、長い歴史を持つ函館市西部地区でも町毎に特色が異なっているために町毎の経済活動にも違いがあるという事が挙げられた。これらの情報を元に、末広町と宝来町の地図制作を進めていく。また、三度のフィールドワークから得られた地域の

特徴や企業の情報をデータベースにまとめた。

5 後期の研究計画

後期では、前期で制作した地図のモックアップの評価を分析し、分析結果を元にモックアップの改良を行う。改良を行った後、再び大学生を対象に改良した地図のモックアップを利用してもらい再評価を行う。再評価したものは、前期で制作したモックアップとの評価と比較し、改善されているかを確認するのが目的である。

また、前期で制作した地図をデジタル化し、それを用いた函館市の歴史や経済活動の歴史についての理解を深めることのできるデジタルコンテンツの開発を行う。函館市は、開港以来158年という歴史がありその歴史の中で様々な経済活動が行われてきた都市である。そのような長い歴史を持った函館市や函館市の経済活動の歴史を知るとは、函館市の歴史や地理の変容、現在の函館市の経済活動との違いを理解することにも繋がると思われる。また、デジタルコンテンツは紙媒体に比べ画像や効果などを容易に付加することができる。加えて、Webで公開するという事は函館市だけでなく様々な地域からWebサイトを閲覧することができるという利点もある。デジタルコンテンツ開発終了後、実際にWeb上にサイトを公開する予定である。

参考文献

- [1] 函館市, 函館市史デジタル版通説編第4巻 第6編 戦後の函館の歩み, 函館市
- [2] 函館市, 函館市の商業-平成19年商業統計調査結果-, 函館市
- [3] 函館市, 中心市街地の現状, 函館市
- [4] 伊原 久裕、森田 昌嗣、曾我部 春香、その他：小国町のための地図デザインとその展開：遊歩道サインとガイドマップ、観光ガイド・リーフレットと観光案内サイン, 日本デザイン学会. デザイン学研究作品集 (16), p74-79, 日本デザイン学会, 2011
- [5] 益岡 了、尾崎 洋：デジタルコンテンツが与える地域の魅力への影響, 日本デザイン学会. 研究発表大会概要集 (57), p104-105, 日本デザイン学会, 2010

(注：[1],[2],[3]の参考文献のURLはスペースの都合により省略した。)